

環境コンパス 25-2 2013.7.10.

地域環境広報事務局・080・8556・0821

環境を保全する機関が環境破壊を実行中

(財) 鹿児島県 環境整備公社

誰が見てもちょっとおかしいと思うのは「鹿児島県（財）環境整備公社」が薩摩川内市に建設中の廃棄物処分場である。市民の飲料水を涵養している阿茂瀬川上流にその現場はある。採石場の跡地を買収して、処置に難儀をするほど湧水・地下水の豊富な場所に、発破（火薬）をかけて工事をしている。



写真① 窪地に湧水対策工事に余念がない現場 2012秋

上の写真を見ると斜面を階段状にしてコンクリート擁壁で固め、湧水の出口を封じ込めようとしている。冠嶽山系の内包する地下水量は多量で、出口を封じても水圧が高くなり予期しない場所から噴出してくる。産廃処分場工事は、山地地下水の何たるかを知らない者の暴挙である。この場所は阿茂瀬川最上流の水源地であり、下流域に生活する市民の「命の水」である。飲料水、農業用水として貴重な市民の「水」である。



写真② 地域住民の反対声明板



写真③ フランスからも取材

「命の水を守ろう」

現地では市民によって命の水を守る活動が展開している。阿茂瀬川の橋の上には怒りを表した声明板が多く掛けてある。県内外からの支援者も訪れているが、「何と云っても、この水を利用している市民の支援活動をお願いします」と現地では訴えるように話していた。

今、地域住民はさらに声を大きく挙げようと準備している。この工事で失われるものが多く、生活が脅かされ、税金の乱費を考えれば県民として当然の行動である。県民の皆さん一度現地を見てください。支援をお願いいたします。

処分場からの水漏れ防止は、実質的に2枚の遮水シート（厚さ1.5mm）だけ。シートが破損すると、地下水の中へ汚染水が混入する。何故水源地に処分場を造るのかと疑問になるが、現地に詰める人たちは「採石場跡地利用のうまみのため」と言い切る。かつて、この水源地に鉱山事業を実施したとき、先人達は下流域一帯の水被害対策を住民と熱心に対話をかわし、農業を主体に里山を守ったという史実がある。今も現地に、厳然とその証が残されている。写真④の三峰池は工事によって濁水が入り、水質が悪化している。



写真④ 三峰池



写真⑤ 記念碑



写真⑥ 水源の神